

答辞

日々、景色が春の色に染まっていく季節となりました。先生方をはじめ、保護者の皆様に見送られて卒業できることを卒業生一同を代表し、厚くお礼申し上げます。

初めて福翔の制服に身を包み、門をくぐった三年前がはるか遠い、昔のように感じられます。この場所を自ら努力を重ね、勝ち取った合格。あの努力がなければ、私たちは出会うことができなかったと思うと、奇跡のような出会いに胸が熱くなります。

私たちはこの三年間で多くのことを学びました。

一年生で行った宿泊研修、二年生で行った研修旅行。いつもと違う場所で過ごす時間は一層楽しく、忘れられない思い出です。絆を深めると同時に「自由」とは何か学び、「自由」は難しいと実感できた行事でした。

三年生の文化祭。一人ひとりの個性が集まり、一つの企画ができる。その企画が集まり、笑顔が溢れる。「RAINBOW」というテーマにぴったりの大成功の行事でした。

そして三年間の集大成である、体育祭。それぞれ悩むことも、ぶつかることも数えられないくらいあったと思います。日に日に近づく体育祭本番。その責任の大きさに、私自身も正直、学校に行くことが憂鬱になった日もありました。それでも前を向けたのは、頑張る場所は違っても必死にスタンドに向かって叫ぶブロック長を中心とする長みんな、役員達の後ろ姿が本部から見えていたからです。「初めて何かをして泣いた、死ぬ気でやった」と胸を張って言えるほど必死だったリーダー達の姿に「一生懸命ってかっこいい」「自分も最後まで諦めない」そう思った仲間はきつとたくさんいたと思います。私もその一人です。誰かの何気ない一言や行動が、誰かの勇気や力となり、私たち一一八回生は、強い「信頼」という絆で結ばれたのです。その絆こそが

全校スローガンである「調和」の本当の意味であると今なら分かります。

それぞれの受験の時期は仲間同士で支え合い、先生や家族に支えられ、福翔生の秘められた気力を存分に発揮して走り抜けました。耐え抜いたこの日々はきつとこれから先の自分の人生の糧となると思います。

先生方、三年間私たちを見守ってくださり、ありがとうございます。ありがとうございました。いつも先生方は傍にいて、話を聞いてくださいました。愛情ある先生方がたくさんいらっしやるこの福翔高校で青春時代を過ごせたことをとても誇りに思います。

お母さん、お父さん。今まで育ててくれてありがとうございます。今日の十八年間で、たくさん笑わせてくれて、叱ってくれて、弱音を吐きたいときにはずっと話を聞いてくれて、そして背中を押し続けてくれてありがとう。小さい頃は喧嘩もたくさんしたけれど、感謝の気持ちでいっぱいです。私のお母さんになってくれてあり

がとう。

三年生のみんな。入学して、気づけばあっという間に三年が過ぎ、この日が来てしまいました。合羽を忘れて土砂降りの中笑い合って帰ったあの帰り道も、気になるあの人に話しかけたあの勇気も、大切な友達に自分の気持ちをうまく伝えられず、すれ違ってしまったあの日も、達成感に満ち溢れ、一緒に流したあの涙も、私たちががむしゃらに走ってきたこの三年間はすべて「キラキラな青春」の一ページだったのだと今だからこそ気づかされます。どの瞬間ももう戻ってはこないけれど、この三年間は一生忘れることはない大切な人生の宝物となるでしょう。きっとこの宝物は壁にぶつかったとき、背中を押してくれると思います。この世界に生きる一員として、ささいなことでも自分の思いを自分の声として発して行動し、未来の希望の光を私たちの力でつくっていきましょう。きっと小さな勇気が誰かの勇気を生み出し、大きな原動力となるはずです。

私たち一一八回生はいつかまた、ともに会える日が来ることを信じて、未来に向かって羽ばたきます。

くじけそうなことがあっても、この福翔高校で得た思い出を胸に、自分を信じて、未来を信じて、あきらめずに前へ進んでいきます。

あなたとめぐり会えたことに心からありがとうございます。キラキラな青春を、ありがとうございます。

最後になりましたが、福翔高校の今後の発展を心からお祈りし、答辞といたします。

令和二年 三月一日

卒業生総代 山本華